

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

4

2015
APRIL

山形県中小企業家同友会
月刊同友
やまがた



第20期経営指針をつくる会開講

全社一丸体制は社員の幸せ、企業の繁栄発展、
社会貢献を満足させる経営理念から

食と農学習会開催

東北の農業の現状と展望

第45回中小企業問題全国研究集会

未来を創造する企業づくりへの挑戦!

そうだ、
経営を楽しもう。
だから、
本気で向きあおう。

2014年度スローガン

第20期経営指針をつくる会開講

全社一丸体制は社員の幸せ、企業の繁栄発展、社会貢献を満足させる経営理念から

2月21～22日に、経営指針委員会主催「第20期経営指針をつくる会」が、ホテルシンフォニーで開講しました。中小企業家同友会全国協議会 松井清充専務幹事を講師に迎えた当日は、8名の受講生と修了生が参加し、総勢43名で学び合いました。



今期の経営指針をつくる会は、現状認識を深めることに重点をおいて、より実践性の高い経営指針書の作成をめざします。

冒頭、挨拶に立った菊池幸生経営指針委員長は、「経営指針書は作成がゴールではありません。社員と一緒に実践して良い会社にするためのものです。目標・期限という数字をセットにした行動しやすい伝わる経営指針書をつくっていきましょう」と述べました。

自社の立ち位置を明確に

第1講では、「現状認識 情勢をどうつかみ、指針づくりを生かすか」をテーマに、松井清充氏が講義しました。

松井氏は、「どんな時代でどんな流れでどこに行くのかという時代認識がなければ、自分の思いでどんなに良い計画を作成してもうまくはいかない」と語った後、世界・日本・山形県の情勢と中小企業を取り巻く経営環境の変化を説明し、自社の立ち位置を明確にする必要性を強調しました。

その上で「世界は多極化・高齢化の流れ」「日本は人口減少・成熟化で経済低下、格差拡大、差別化」「地域は地域崩壊、高齢化と過疎化」というキーワードを挙げ、「一見マイナスのワードだが、プラスにすることができる。経営指針に基づいて経営に時代の流れを引き寄せる取り組みが必要です。時代認識と人・地域を資源として付加価値をつける企業づくりが求められている」と語りました。

そして、モノの豊かさから心の豊かさを追及する中小企業の時代になっているが、それを担う実践企業がまだまだ

少ないと指摘。「立ち位置を確認した上で潰れない会社にするために目標を設定し、どんな原因を今つくれば5年後にどうなっているのかを計画にすることが経営指針書である」と述べました。

労使見解からの企業づくり

第2講の講義では、「同友会らしい経営指針の確立、経営理念成文化の進め方、経営指針は労使見解からの企業づくり」をテーマに、同友会の生まれた背景と労使見解、同友会理念について語りました。

全社一丸体制は経営理念が社員の幸せ、企業の繁栄発展、社会貢献の三つを同時に満足させるものであり、それを労使が実践的に共有できた時に形成されるとし、全国の実践事例を紹介。さらに、「地域で仕事と雇用をつくるのが中小企業の使命であり、お客さんをたくさんつくことは地域をよくすることに繋がっていく」と述べました。

そして松井氏は、「第一に経営者の経営姿勢の確立です。経営者が変わらなければ会社は変わらない。まずは覚悟を決めること」と訴え、経営指針づくりのポイントとして、何のために、誰のための企業なのか？何屋さんですか(現在・将来・本当の事業領域)？と問いかけました。

2回の講義の後には、グループ討論が行われ、「会社の現状と課題」「経営の目的と社員の位置づけ」を深め合い、経営理念を作成しました。

これから8名の受講生は、修了生とかかわり合いながら7月の発表会をめざして、自分と会社を見つめ、理念・方針・計画を作成し経営指針書の完成をめざします。



食と農学習会開催

東北の農業の現状と展望



2月20日、食・農部会主催の「食と農学習会」が山形テルサで開催され、会員や生産者等のゲストを含め23名が参加しました。講師として宮城同友会農業部会長の中川浩志氏を招き、「東北の農業の現状と展望」をテーマとし、東北における農業の現状と問題課題改善のヒントを学びました。

現場で培ったもの

冒頭、ご自身の考え方の原点となっているという、中川部会長の経歴を紹介。その中で一番の学びとなった出来事が、務めていた会社の倒産でした。売掛金回収での叱咤激励に、「この人たちは間違っていない、人に迷惑をかけてはいけない」と感じたと言います。

その後、取り引きしていた原料米等を扱う会社に入社するも、冷害で大不作に見舞われ、米の取引における法律の壁や矛盾に、当時の食糧事務所で始末書を書いたこともあったと振り返ります。数々のハードルを持ち前の行動力と発想力で乗り切る中で、「このときに時代の変化を読む勉強をさせていただいた」と述べ、1993年の規制緩和で宮城県の米卸会社としてはNo. 1の売り上げになりました。

同友会と農業

同友会に農業部会を立ち上げた理由として、一つは地域の若手農業者が手掛ける合鴨農法の無農薬米を、農協が売る努力をせず、これで地域農業は大丈夫なのかと不安になったこと。また、地域の至る所に竹藪があるが、筍の産地京都府長岡京市では、畑と呼び産業につなげている。その発想をもとに筍の水煮の商品化ができ、農業と中小企業が連携することによって、地域を活性化できると感じたからと述べました。

農業部会を立ち上げ、生産者を含めた農業関係者を同友会に入会していただき、まずは学ぶことが必要とし見学会を行いました。そこで見たものは、大手もやし

メーカーの大豆が中国産である現実。韓国産粟が台風により入荷できなくなった菓子メーカーなどの事例を紹介。そこから減反している畑に大豆は作れないのか。たばこ工場が撤退し、タバコの葉栽培ができなくなった土地に栗の木を栽培できないのかなど、「日本では減反で苦しんでいる農家がいるのに、なぜ海外から仕入れる材料があるのか？」と問題提起しました。

連携の大切さ

北海道同友会の帯広支部では、農業部会メンバーだけで150名が所属。地元の菓子メーカーが地産地消で、同友会の仲間と、地元にあるもので菓子を作る取り組みをしています。そこに帯広大学も巻き込み、産学官連携で取り組んでいる事例を紹介。宮城同友会はこれを目指したいと熱く語る中、「山形県は宮城県以上の農業地、春から秋まで全く無駄がない。連携したら大きなビジネスチャンスが眠っているのでは？」と大きなヒントをいただきました。

最後に、行政や農協には農業者の現状や声がなかなか届かない現実があるとし、だから中小企業の地域における団結が必要で、ひいては東北の農業関係者が交流することが大事。北海道は農業王国だが、東北が一つになれば、北海道に勝る話題性ができると強調しました。

グループ討論

講演後行なわれたグループ討論では、「どのように“食”を考えますか」をテーマに自由な意見を交わしました。生産者からは農業を継がせたくない親と、継ぎたくない子の現実を知ることができました。今後、日本の農生産は、中小企業がやるべきなのかもとの意見もありました。

人として必要不可欠な“食”を考える中で、地域における農業の現状と、私たちが取り組まなければならない課題を知ることができました。



第45回中小企業問題全国研究集会

未来を創造する企業づくりへの挑戦!



3月5～6日、第45回中小企業問題全国研究集会が、「未来を創造する企業づくりへの挑戦～環境変化に対応できる地域、組織、仕事をつくろう～」をテーマに開かれました。会場となったパシフィコ横浜会議センターには、全国から1203名が集いました。山形からも10名が参加し、一日目の分科会と二日目の記念講演で学びました。

参加者からの感想が届きましたので、ご紹介します。

● 採用とは人の人生を預かること

(有)山形E旅 代表取締役 金田 史生

採用・共同求人の方科会に参加しました。報告者は25年前から新卒採用を行っています。新卒採用は育つまでに時間は掛かるが、①先輩社員の成長②ノウハウの継続性③社の継続性④社風・理念の浸透性において、中途採用と比べ優位であるとのことでした。こういった新卒採用は「戦略的採用」と位置付け計画性があるものです。

報告者の会社では以前27%あった新卒採用者離職率(中途採用者の離職は30%強)が、直近3年間はゼロになっています。リーマンショック後(月商95%ダウン)には、会社の将来に不安を覚えて多くの社員が退職したこともあったそうです。こういった不安を解消するのは経営者の務めで、将来に希望の持てる会社になさなければならない。また、そんな時でも残ってくれた社員に対し感謝の念を忘れてはならないと話していました。

採用と育成はセットでの仕組みづくりが大切で、失敗しながらも続けることが肝要。人の人生を預かるということを肝に銘じて採用しなければならないと感じました。

グループ討論では、魅力ある会社にするには「夢を感じて貰えるようなVisionを具体的に解り易く示すこと」が必要であり、そのために「自己成長できる仕組みをつくること」「安心して働ける雰囲気をつくること」が基本となることを確認しました。

最後に感想ですが、やはり“全国”は良い。たっぷり話ができるグループ討論、記念講演、何度か参加していると顔なじみになる仲間との再会と、良いことづくめです。こんなに学びの多い“場”はないと思います。ぜひ年に一度は全国へ!

● 大切なのは社員の力を信じる強い想い

(株)菓子工房COCOイズミヤ 代表取締役 庄司 薫

私の参加した分科会は、社員教育(人を生かす経営)です。8年前に先代から社長を引き継ぎ、経営指針書を作成し、社員教育を実践している社長の報告でした。

驚いたのは、土建業の会社なのに経営理念は「共に育ち、共に生き、共に発展」、事業領域に関しては「労働力創出業」。会社は「人づくりにあり、社員の自立と幸せの為にあり」と、社員と真摯に向き合い年4回の個人面談をは

じめ、経営理念に添った個人目標の設定やいろんな仕組みをつくり実践されているとの事でした。

個人の目標を設定し実践する中で大事なことは、技能共育と理念共育を一緒にやっていくということで、いくら個人の目標が達成されても、理念に合った行動をとったかを一緒に評価できる仕組みもあり、全社あげての全員参加の全員経営の仕組みは素晴らしいと感動致しま

した。

社員教育には仕組みづくりが必要ですし、それが会社の未来につながることはわかりますが、それを回して持続することは大きな壁です。経営者の姿勢と強い覚悟はもちろんです、何よりも大切なことは社員の力を信じる強い想いがなければ出来ないということです。

私は今年、仕組みづくりを目標としてきましたが、最

も大事なことは、経営者が社員の力を信じ、向き合い、添って行く事なのだと思います。その上での組織化と仕組み化、環境整備に取りかかりたいと思いました。

全員参加の全員経営は、後のスムーズな事業承継へつながらる事も勉強になりました。みんなでよい会社、強い会社にしてゆくことが事業承継の第一歩だと実感しました。

● 新しいフロンティアを目指していく時代

(有)鏡畳店 代表取締役 鏡 芳昭

みんな同じような問題を抱え課題を持っている。中小企業にとって、地域的な差などほとんどないと、参加した分科会「国際展開」での報告とグループ討論で感じました。

報告は北海道旭川「カンディーハウス」という家具メーカーの渡辺社長の体験報告で、海外チャンネル開拓の話でした。バブル期の進出ということで、現在の時代背景とは違いますが、かなりのご苦労があったのだと想像しました。

私が受け取った渡辺社長からのメッセージは「怖くないからやってみろよ」と、挑戦することでしか道は開けないということです。

また、グループ討論では、海外進出の必要性や事例などをテーマにディスカッションしました。海外展開というと夢のような世界を想像しがちですが、現実は一筋縄

ではいかない難しさがあります。そういう面では、皆さんがとても現実的に討論できたと感じました。

このような体験を通して、国際展開は特別なことではないし、国内か海外かと二者択一で思考すること自体がナンセンスなのだと思います。また、国内でも地域格差が言われてきましたが、地理的条件が格差を生んできた既存のルールが変わっていることに気づき、私たちの優位性を活かした事業を見つけることが急務だと感じました。

時代は大きく変化し、大きな断層をむかえるような気がしています。私たちの選択肢は大きく広がっています。このフィールドをどうやって活かしきるか、新しいフロンティアを目指していく時代が始まっている気がします。その当事者が私たちなのだと、改めて確認できました。

● 平和問題を考える？

寒河江物流(株) 代表取締役 後藤 智樹

私が参加したのは、「幸せの見える日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざして」という、めずらしい平和問題についての第2分科会でした。めずらしい分野だったので、どのような話、グループ討論がなされるのか見てみたいと思って参加したのですが、案の定、リベラル的な内容だと私は感じました。

グループ討論では改憲の話なども出ました。よくわからない、という人もいましたが、これも想像通り、護憲派が主流で、とくに九条は改憲してはいけない、九条が日本を守ってくれてきた、などというのが多かったです。そんな中、私は勇気をだして、憲法は改正しなければならないと発言しましたが、グループ内で改正賛成は私を含めて2人だけでした。

やはり、戦後の反日プロパガンダが氾濫する中で仕方がないのかもしれませんが、あまりにも知らなすぎるの

が問題だと思います。経営の勉強ももちろん大事ですが、今の憲法がつくられた背景、大東亜戦争、日韓併合、日中戦争等をなぜ、せざるを得ない状況だったのか、正しい歴史認識が必要だと思います。同友会でもよく「誇り」という言葉がでてきますが、まずは、日本人としての誇りが一番肝心ではないでしょうか。



新庄最上支部立ち上げに向けて

～お知り合いの経営者の方をお誘いください～



新庄最上支部の6月の立ち上げを目標として、新庄最上支部準備会を中心に着々と取り組みが進められております。

1月会では(株)アドクリーン 安藤社長が「社長が変われば会社が変わる」のテーマで報告しました。「社員をしあわせにするのが社長の責任」の思いを、凡事徹底を通して進める安藤社長に、経営者の覚悟を見ることができました。

また、2月会では(株)菊池技建 菊池社長が「そうだ、計画をつくろう」をテーマとして報告しました。

なぜ計画が大切なのかを、通常の生活の例題を会社に置き換え、解りやすく説明。「何のために仕事をしていますか？」を社員と共有し、「情熱・行動・数字」をもって取り組む大切さを学びました。

1月会の参加者からは、「社員の成長が会社の成長へつながると思いました」「社長の人間性に社員はついていくのだと思いました」「社員、お客様、地域社会から『よい会社だね！』といわれる会社になりたい」。2月会の参加者からは、「計画が行動の一步だと感じた」「明確なビジョンを見つけることが大事」など、それぞれの気づきや学びに繋がる多くの声が寄せられました。

今後も、学びの多い「新庄最上支部準備会例会」を毎月開催していきます。

つきましては、「新庄最上支部準備会例会」へのご参加と、また、新庄最上地域のお知り合いの経営者様に、ご参加・ご入会のお勧めをいただきたくお願い申し上げます。

新庄最上支部準備会「4月会」のご案内

地域と生きる 企業となるために

報告者：(株)山形ピッグファーム
代表取締役 阿部秀顕氏
(山形支部長)

2015年4月28日 18:15～

場所：新庄市民プラザ 3階 小ホール
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

幼少期から身近に養豚という仕事があり、次男でありながら家業を継ぐことになった阿部社長。しかし地域の中ではなかなか認められる職業ではなく、生業としながらも、本当に地域に誇れる仕事なのか自信が持てなかったと語ります。

そんな中でも環境問題の対応や農場の移転等、問題課題に真摯に取り組んでいくうちに、地域からの見方が徐々に変化し始めました。さらに飼料用米の存在により地域農家と繋がり、地域に存在する意義が明確になり始めます。そこから「舞米豚」というブランドが生まれ、現在では地域から応援してもらえる会社にまでなってきました。

地域で必要とされる企業とは、何を見て何をしていくのかを学びあいます。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

会社概要

◇創業:S40年1月 ◇資本金:1,000万円 ◇社員数:41名 ◇事業概要: 養豚業
◇所在地:山形県東村山郡山辺町大字根際249 ◇HP:<http://www.pigfarm.co.jp/>

ご案内

第31回定時総会

山形同友会創立30周年！ より地域に必要な存在へ！！

日時： 2015年 **4月23日**(木)
受付／12:30 開会／13:00

第1部	定時総会	13:00～14:30
第2部	記念講演 グループ討論	14:40～16:35 16:50～18:45
第3部	懇親会	19:00～20:30

会場： **ホテルメトロポリタン山形** 山形市香澄町1-1-1
TEL023-628-1111

参加費 第1部 定時総会 無料
第2部 記念講演・グループ討論 2,000円
第3部 懇親会費 5,000円

申込メ切:4月18日(土)*4月20日(月)以降のキャンセルは、全額ご負担頂きます。

記念講演 **変革と承継** ～何を託し、何を受け継ぐのか～

講師：(株)伸電 取締役相談役 **原田 誠**氏(宮城同友会理事)
代表取締役 **佐藤 弘樹**氏(宮城同友会理事)

中小企業において、事業承継は企業を存続させていく上で避けては通れない課題です。

創業者である原田氏は、次世代の人材育成をめざし、新執行部を立ち上げます。当初、理論で押されても腑に落ちなかった佐藤氏をはじめとしたメンバーは猛反発。喧々諤々の話し合いと実践を重ねた結果、信頼関係と共に新しい企業価値を構築していきます。

苦労の末、2007年に佐藤氏に社長を交代した原田氏は語ります。「事業承継はきれいなことではなかった。労使見解の実践でよい会社、継ぎたいと言われる会社づくりこそが必要」だと。

継ぐ側、継がせる側は、何を考え実践してきたのか。そして、何を引き継ぎ、どう発展させていくのか。継がせたい、継ぎたくない会社づくりを改めて考えます。

第21回さくらんぼ支部総会

記念講演の講師は、東根市長 **土田正剛**氏に決定！

日時： 2015年 **5月7日**(木)
受付／16:00 開会／16:30

第1部	支部総会	16:30～16:55
第2部	記念講演	17:00～18:00
第3部	懇親会	18:30～20:30

会場： **さくらんぼタントクルセンター 2F 視聴覚室**

参加費： 第1部 総会・第2部 記念講演 無料
第3部 懇親会費 5,000円(懇親会場 心月)

第12回理事会報告

◆日時:2015年3月11日(水)14:00~16:00 ◆会場:山形ビッグウイング 4F 会議室 ◆議長:齋藤専務理事
◆出席:西塔、青柳、齋藤、佐藤(一)、安藤、若木、奥山、長澤、庄司、佐藤(知)、玉津、阿部(和)、小林、越前屋、伊藤、大場、川合(敬称略・順不同)伊藤(由)、矢作、高橋(事務局) 理事16名

■開会挨拶(西塔代表理事)

総会前の大事な理事会で、役員改選、会費改定の重要な議題があります。今、同友会の役割が期待されています。もし、理事の会社にもしものことがあれば大変な影響をあたえます。大変だと言いきいかもかもしれませんが、そうなる前にきちんとおっしゃってください。山形は400名を越し、まわりには多くの社外重役がいますので力を借りてください。助けを求めてほしい。求められたら、私たちは積極的に支援していくことを確認したいと思います。

同友会運動の発展のために(p18)のリーダーのあり方について説明し、「役員として大勢の人たちの力を引き出し、まとめていく責任と役割が大きくなっています。常に学ぶ先頭に立ち、「同友会理念の体現者」をめざすことを強調しました。「理事会に出席し一言も発言しないのはもったいない。ぜひ、忌憚のない意見をだしてほしい」と強調しました。

また、会費改定が議題となっており、健全財政(p22)の堅持について、会費100%回収、赤字をつくらぬ予算管理、会勢に応じた事務局運営、会員増強で財政基盤の拡大を図ることなど4点を説明しました。「このことを踏まえて、討議をしてほしい」と述べました。

■報告事項

1)中同協伸奈川全研(3/5~6)の報告 (山形:10名出席)

奥山:14分科会(中小企業振興条例)に参加し、植田先生の講義、円卓会議の重要性、条例をもとに政策提言活動につなげている事例に学び、参考にしていきたい。

庄司:第9分科会(社員教育)「育成出来ない会社に未来はない」の報告は、経営理念が「共に育つ」、事業領域を「労働力を創出」と定義し、全社員参加の企業づくりに共感しました。

2)社員共育委員会 阿部理事より合同入社式・新入社員研修(4/3)の案内をしました。

3)共同求人委員会 玉津理事より、県内の大学、専門学校訪問とJobway登録が14社になったことを報告しました。第2期目となる山形大学低学年のインターンシップについての協力依頼がありました。

4)2015年2月月次決算報告(矢作事務局次長)

■承認事項(入・退会承認) 5名入会、8名退会 3/11現在426名

■討議事項

議題1:第31回定時総会の件

1)実行委員長の伊藤理事より、各支部目標と参加動員の協力要請がありました。

・第1次集約:4月2日(木)54名(30%) ・第2次集約:4月9日(木)90名(50%)
・最終集約:4月16日(木)144名(80%)

2)全体タイムスケジュールと役割分担について説明し、当日の集合時間は10:30、会場はホテルメトロポリタン山形 5F 実行委員会控室と説明しました。

3)グループ討論スキルアップ勉強会の参加要請がありました。

●日時:4月7日(火)18:00~21:00

●会場:山形ビッグウイング 4F 研修室

議題2:2015年度議案書の件

1)2014年度活動のまとめ

2)2015年度方針(案)

西塔代表理事より、「情勢」が加筆されたことを説明。

各委員会、部門方針について、各担当者より新年度重点方針を説明しました。

議題3:2015年度役員(案)について

西塔代表理事より、役員候補として31名が提案され承認されました。また、これまで、複数代表理事制であったことから、今後の活動を鑑み中同協関連、他団体との関係で、複数代表理事制の提案がありました。今年度、予定どおり代表理事1名で、3名の副代表理事が補佐することを確認し、代表理事の複数制については次年度検討することになりました。

青柳副代表理事より、役員数が30名を超えたことで、役員選考規程(案)を4月理事会で再確認すると報告がありました。

議題4:役員選考委員の選出の件

西塔代表理事より、下記の6名の推薦があり、承認されました。

・常任理事会/後藤智樹氏 ・山形支部/阿部秀顕氏
・寒河江支部/佐藤弘康氏 ・さくらんぼ支部/菊地仁士氏
・置賜支部/長沢 武氏 ・庄内支部/佐藤知志氏

議題5:会費改定の件

青柳副代表理事より、会費改定の見直しの提案があり、改定額を[現行]月額5,000円から[改定後]月額6,000円に、改定期を2016年4月にすることを、4月23日第31回定時総会に上程することが決まりました。

議題6:2015年度予算(第1次案)について

齋藤専務理事より、3月理事会で承認された426名が期首会勢で予算編成をし、第1次予算案が提案され、4月理事会で最終案を確認することになりました。

議題7:事務局人事の件

西塔代表理事より、昨年5月作成された給与テーブル表にもとづき、高橋氏が事務局次長になることが報告されました。

議題8:会員増強について

安藤理事より、第3回増強月間の活動報告がありました。3月は入会5名、退会8名と退会が上回りました。組織委員会だけでなく、理事会の協力が必要であることを訴えました。

新庄最上支部立ち上げの取り組みの報告があり、理事会で責任を持って支部を立ち上げの協力依頼がありました。

議題9:創立30周年記念式典の件

西塔代表理事より、下記の点が提案され承認されました。

1)開催日時(案)

●日時:2016年1月21日(木) 午後
●会場:ホテルメトロポリタン山形

2)企画(第1次案)として、記念講演、パネルディスカッション等の提案があり、承認されました。

■その他

1)次回経営体験報告者:長澤 武氏 座長:佐藤松雄氏

2)第3回東日本大震災復興シンポジウム(3/26~27 in宮城)参加依頼の件
・伊藤誠氏、武内氏、板垣氏、長瀬氏、菊池氏、舟山氏、今泉氏 8名出席予定

3)第13回理事会日程

●日時:4月8日(水)午後2時~午後4時
●会場:ビッグウイング 403会議室

●議題:第31回定時総会関連

①2015年度予算編成
②規約改正等の最終確認
③その他

■閉会挨拶(青柳副代表理事)

新会員紹介

◎齋藤 慎氏

(株)丸友中屋
業種 大工道具、建築金物販売、電動工具修理販売
寒河江支部

◎高橋 克直氏

(株)いこい不動産 代表取締役
業種 不動産業
さくらんぼ支部

支部・会員名・ 企業名・役職変更

●大盛設備(株)(寒河江支部)
取締役 森 美次氏
⇒モリ住工(株)
代表取締役 に変更

◎安達 史倫氏

山安園 代表
業種 農作物生産・販売業
寒河江支部

◎白井 健道氏

Le Monde en Direct 代表
業種 NPO法人(人材育成)
さくらんぼ支部

◎五十嵐 明美氏

(有)五十嵐陶器店
業種 陶器、贈答、インテリア類、雑貨
庄内支部

同友やまがた4月号(2015年4月1日発行/通巻265号)

From Editor

★澁刺とした新入社員を迎え、入社式や研修などが実施され、社内に新しい風が吹いていることと思います。2015年度は、山形同友会は今年創立30周年を迎え、記念事業が4月の定時総会からスタートします。この同友ニュースと同時に、2015年度議案書をお届けしています。そのなかにユネスコ学習権宣言(抜粋)が掲載されています。新しい会員さんには、なぜ、掲載されているのか疑問に思われている方も多いかと思います。★1996年に宮城同友会から3名の講師を迎え、単発の経営指針作成セミナーを開催しました。その後、完成をめざし受講生有志が約11カ月間かけて修了し、現在の第20期経営指針をつくる会へと引き継がれています。経営指針の実践の段階で、社員教育が課題となり、北海道同友会を訪問し「共育」の原点を学び、

2000年に「社員教育委員会」を立ち上げました。その時に教わったのが、同友会の社員教育の考え方、「ユネスコ学習権宣言」です。★2005年11月に創立20周年事業として、「第21回社員教育活動全国研修・交流会」を山形で担当しました。実行委員会の活動で「労使見解」と「学習権宣言」を学び、「人間として誇り高く生きること」や共に学びあう原点として大事にしてきました。全国交流会終了後に、いち早く「社員教育」を「社員共育」委員会の名称に変えたのもこの時でした。★今年11月に「第27回社員教育活動全国研修・交流会」を10年ぶりに山形で開催します。実行委員の方も初めて触れる方が多くなりました。このユネスコ学習権宣言で語っている「自らの歴史をつくる主体」でありたいと思いつつ、語り継いでいきたいものです。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp